

# カトリック六甲教会 教会報

2007

3  
No.423

## 3月の予定

		教会暦	教会行事
2	金		初金 7:00 10:00 ミサと十字架の道行き
4	日	四旬節第2主日	洗礼志願式(9時ミサ中)
9	金		10:00 集会祭儀と十字架の道行き
10	土		14:30 教会学校卒業式(6年生の卒業合宿)
11	日	四旬節第3主日	春の墓参(9時ミサ後) 11:15 小教区評議会 17:00 海星病院集会祭儀
15	木		14:00 ベタニアの集い
16	金		10:00 集会祭儀と十字架の道行
17	土		10:00 教会学校2年生の一日錬成会
18	日	四旬節第4主日	10:00 ミサ後小教区総会、第2回堅信準備会
19	月	聖ヨセフ	14:00 三日月会 ミサと例会
23	金		10:00 集会祭儀と十字架の道行き
25	日	四旬節第5主日	17:00 海星病院集会祭儀
26	月	神のお告げ	11:00 ベビーとママの集い
30	金		10:00 共同回心式と十字架の道行き

## 入院の实り ~感謝のことば~

皆さんがご存知のように、1月後半から入院をして、ひざの人工関節の手術を受けました。皆さんの祈りのお陰ですべてが順調に回復してきました。心から感謝しています。

入院している間にいろいろなことを考えました。入院の体験のもとで、自分では何もできず、本当にすべてを主にゆだねました。主にだけではなく、病院の先生、看護師さん、病院の方々にもすべてをゆだねることになりました。最初は不安を感じましたが、すべてをゆだねることによって心の平安を感じました。入院していても、生命の危機はいろいろあり

ます。血栓のことや感染のことなど、不安を感じるたびにもし何かあったら、そんなに天国ははなれていないのだと時々考えました。

そして、すべてをゆだねたと言っても、大勢の人の祈りによって支えられて、安心していました。家族のきずなやイエズス会の兄弟とのきずな、六甲教会の共同体とのきずなは大きな力でした。人に会うことができなくても、みんなの祈りがよい実りを結んで、病院の毎日の生活を静かに過ごしました。みんなの祈りを頂いて、与えられた愛をより深く味わいました。人のために祈るのはとても大事な

愛のしるしです。だからこの祈りに支えられて淋しくはありませんでした。特に司祭として、みんなの祈りを頂いて、愛されているものだから、司祭の道は孤独ではないのです。逆に司祭としての人々との係わり合いで本当に豊かです。感謝でいっぱいでした。

今、四旬節に入って、イエス様のご受難、ご死去、ご復活の偉大な神秘を心の中に入れて、この偉大な神秘を生活の中に“生きる”のは大切な努力です。リハビリの時に思いました。人間は元気な体を保ちたい、それ以上に丈夫な心を保ちたいと願うものです。そう思いながら行うリハビリは祈りです。祈りを通してイエス様にかなう心を得たいと思います。特に、何かの理由で苦しんでいる人たちを仲間にして、仕えるように努力するのは素晴らしい四旬節の努めです。苦しんでいる方を直接手助けすることはいつも

できるわけではありませんが、その人たちのために祈ることは、いつでも、どこでも、誰にでもできます。私たちみんなが同じ人間としての苦しみを抱えています。病気でなくても、戦争でなくても、不正に苦しんでいなくても、どんな人生の中にも不自由なところがあります。だからイエス様の十字架への道を黙想して、どんなつらいことにあっても人々とともに歩み、祈り、共に励ましあい、復活の希望をいつも持って進んでいきたいと思えます。

みなさん、入院している間、大変お世話になりました。今年の四旬節を通して豊かな恵みを受けることができる様、祈ります。またこの場を借りて海星病院のみなさんにも感謝いたします。ありがとうございました。

ジョン・オマリー神父

---

## 各 部 会 だ よ り

### ☞ 壮年会

壮年会総会並びに新年度第1回例会  
4/1(日)12:15~ 第1、2会議室にて  
新年度の第1回例会です。06年度の決算報告と新役員による活動予定報告など。ひきつづき懇親昼食パーティーを予定しています。多数の会員のお越しをお待ちします。

男の料理教室 4/18(水)10:00~

### ☞ 婦人会

婦人会総会と親睦会

2/2初金ミサ後、イグナチオホールにて開かれました。桜井主任司祭のご挨拶に続き 2006年度の活動報告と、12月までの1年間の会計報告が行われました。今年度は任期が3月までになります。2007年1月~3月の会計報告は、2006年度の役員で監査し2007年度の役員7名に承認

して頂くことを、総会で承認して頂きました。その後、新役員の紹介があり、それぞれ一言ご挨拶していただきました。新会長は山本さん、副会長は伊集院さん、清水さん、書記は川合さん、堂上さん、会計は入江さん、山懸さんです。美味しいお弁当のあと、桜井神父様のアトラクション、漢字ビンゴで楽しく盛り上がりお開きになりました。美人揃いの((?\_?))今年の役員一同、皆様の暖かいご支援とご協力に心から深く感謝申し上げます。ありがとうございました。  
(北上)

聖堂掃除当番

3日(土)教会学校

10日(土)午前 3班

16日(金)東4・5・西1

25日(日)ティーパーティ後 4班

午前はいずれも午前9時30分からです。

日曜日 11 時のミサ後に掃除を担当する4班は人数不足のため追加募集をしています。

掃除についてのご質問ご意見などは北上までご連絡下さい。

登録していない方も、ぜひ一緒に私達の教会をお掃除いたしましょう。たくさんのご参加お待ちしております。

### 「お掃除」に参加して

新しい掃除当番表にしたがって2月9日、夫婦同伴で参加しました。私たちは金曜日の午後のグループです。午後1時半にほとんどの登録メンバーが集まりました。トップの沖本さんから「決してご無理はされないように、出来る範囲でご奉仕しましょう」とあたたかいご指示をいただき、それぞれが持ち場を選んでお掃除に励みました。私たち夫婦は二階のトイレ掃除を受け持ちました。気にかかっていたながら今まで事情で参加できなかった方たちも、このたび参加できた喜びの気持ちを表され、挨拶を交わしながら和気藹々のうちにあっという間にきれいになりました。この日は男性が4人も加わっています。「お掃除」は婦人会の仕事という意識がどこかにあったと思いますが、これからは男性諸氏もどしどし参加しましょう。(詫)

### 青年会

#### < 定例会 >

- ・ 3/11(日) 12:30~14:00 第3会議室  
内容: 聖書を読んで分かち合い
- ・ 3/25(日) 12:30~14:00 第3会議室  
内容: 聖書を読んで分かち合い  
この日の 11 時ミサ後に行われるバレンタイン神父様の送別会の担当となっています。  
ご協力よろしくお祈いします!

### 三日月会

#### < 例会 >

3/19(月)14時~ ミサ

世界史教授 杉本敦子先生のお話し

## 喫茶コーナー

2000年7月より7年間、毎月第1・第3の日曜日に多くのみな様の協力で開催してありました喫茶コーナーでしたが、事情により昨年末に閉店させて頂きました。

今年1月より、三日月会有志の方々によって、リニューアルオープンいたしました。原則として、毎月第1日曜日に開店予定ですが、各会の行事等でイグナチオホールが使用できない場合は、お休みさせて頂きます。

なお、2006年12月までの、喫茶コーナー献金の一部はチャリティー献金として教会へ寄付。残高は、新喫茶コーナーへ引継ぎ、運転資金として使わせて頂きます。新喫茶コーナーでは、お店の名前や、お手伝いの方(年齢、性別不問)等も募集しておりますので、多くのみな様のご協力をお願いいたします。(川越)

### 社会活動部

3/9(金) 11:00~ 社会活動部連絡会

於: 第2会議室

今年度最後の連絡会です。今月初金ミサ後ではなく、第2金曜日に変更となっておりますので、ご注意下さい。次年度に向けての細々とした連絡事項が多数あります。各グループの代表者は必ずご出席を御願い致します。ご都合の悪い方は、代わりの方に出席依頼をして下さい。宜しく御願い致します。

## 司祭の人事異動などのお知らせ

主任司祭より

1) 先月2月号でお知らせしましたように、「ザビエル・ハウス」(修道院)には当教会の協力司祭である安芸神父とオマリー神父、そして4月からは六甲学院の赤松神父(新しい共同体院長)とブラザー・メルシュさんの4名が居住することになります。なお、教会にも多大の協力をして下さった六甲学院の梶山神父(現共同体院長)はイエズス会本部の管区長補佐に、中間期生の柴田さんと中井さんは神学課程に進むため、3月下旬に東京に異動されます。感謝と祈りのうちにお送りしましょう。

2) さて大切な教会の人事異動として、助任司祭・バレンタイン神父が3月下旬に東京に転任することになりました。3年前東京から六甲教会に赴任した年は心臓手術などがあり、ゆっくりスタートされましたが、その後聖書の勉強会を始め、婦人・壮年の黙想会や青年会の指導、結婚準備セミナーや市民クリスマスなどを担当し、幅広く教会のために奉仕して下さいました。

3月下旬からは東京都新宿区中落合に在る「聖母病院と聖母ホーム(特養)」のチャプレンとして、病者・高齢者のために奉仕されます。同神父に適した仕事であり、その働きが大いに期待されています。私たちは(同神父の霊的招きに合わせ)“1分間目をつぶって・・・”今までの教会への奉仕に感謝を捧げ、これからもお元気に活躍されますよう祈りを込めてお送りしたいと思います。

[尚、同神父とのお別れは、3月25日(日)11:00ミサの予定です]

3) 六甲小教区の司祭団は4月から安芸・オマリー・桜井の元気な(?)3名に減りますが、信徒の皆様が協力的で自立した働きをして下さっているので安心です。信徒の協力によって、教会が成長していく望ましい姿だと思います。ただ司祭の担当としては、安芸神父(三日月会、ベタニアの集い、病者訪問)、オマリー神父(典礼部、中高生会、海星病院、神戸中央英語ミサ)、桜井神父(教会学校、広報部、教会財政、墓地委員会、集会祭儀、結婚準備セミナー、神戸地区東ブロック)の担当を継続したいと思います。

4) イエズス会として(主任司祭以外に)、フルタイムの助任司祭を派遣出来ない時代になりましたが、毎年夏に来て下さっていたので皆様ご存知のダニエル・コリンズ神父(3月に上智大学を定年退職し、4月より京都の聖母女学院短大が長)が年間を通して、教会3階司祭館に土曜日一泊し、日曜日のミサに協力して下さいました。教会にとっては大きな助けであり、有り難く感じています。京都での大学の仕事が、土曜・日曜には少ないように(?)祈りたいですね。

5) 昨年、ザビエル・ハウスから大阪八尾教会に転居した高山神父が4月から教会3階司祭館に居住することになりました。仕事は同じく釜ヶ崎と関西地区のベトナムの方々のお世話です。多忙な日々であると思いますが、一緒に住み、一緒に祈ってくださるので頼もしい同居人です。

## <お 知 ら せ>

### 【社会活動部より】

3 / 7 (水) 10 : 00 ~ 手芸の集い (於 : 第 1 , 2 会議室)

4 月からは新世話役に代わりますので、現在の北上さん、堤さん両世話役のもとでの 18 年度最後の集いとなります。手作りのお好きな方、何方様も歓迎です。ご参加お待ちしております。

3 / 10 (土) 10 : 00 ~ 炊き出し

教会台所で準備し、用意の出来次第、小野浜公園に移動致します。ご協力宜しく御願ひ致します。

3 / 15 (木) 14 : 00 ~ ベタニアの集い (於 : 小聖堂 & イグナチオホール)

聖体拝領式と懇親会。追ってご案内を申し上げます。お元気な顔を見せて下さいますように、担当者一同お待ちしております。

3 / 23 (金) 14 : 00 ~ おにぎり作り (於 : 教会台所)

須磨方面夜回り支援の為に作ります。ご協力を御願ひ致します。

3 / 25 (日) 10 : 00 ~ 手作りコーナー (於 : イグナチオホール)

恒例の第 3 週は小教区総会の為、第 4 週に変更させて頂きます。毎回好評の手作り弁当、食品、小物等の販売を致しますので、是非お立ち寄りの上、ご協力を御願ひ致します。

### 【養成部より】

3 / 24 (土) 10 : 30 ~ 12 : 00 「哲学入門」(於 : 六甲学院生徒研修所)

哲学入門の最終回となります。どうぞご参加下さい。

## 図書紹介

---

### 「ザビエルとその弟子」

加賀乙彦著  
講談社

ザビエルが日本を離れて後、滞在したマラッカからこの本は始まります。この地で次なる宣教地中国を目指して準備を進めるザビエルを次々と襲う悪意に満ちた出来事、弟子の裏切り・・・。ザビエルの弟子とは、まずエリート神学生であったフェレイラ、最初の日本人宣教師となったパウロ・アンジロウ、そして最後までザビエルに付き添ったと言われる中国人の老神学生アントニオですが、これらの人物が現実と超現実の世界で、能の舞台に現れるように会話を交わします。このせいか、描かれているザビエルの苦境も含めて、この本はどこか不思議なモノトーンのような静ひつさを醸し出しています。

クライマックスは、死期の迫ったザビエルがサンチャンの浜辺で、日本を追われて寧波で処刑されたアンジロウの霊、ついでイグナチオの

霊と語り合う場面です。「日本の聖人」と言われたザビエルが、日本での宣教に成功したとは言えなかったのは何故か？土着の宗教（仏教）との対話の足り無さをアンジロウは指摘し、ザビエルも受け入れます。「戦う教会」はその後の凄まじいキリシタン弾圧政策によって、日本では挫折したようにも思えます。しかし、一見挫折と失意の連続であったザビエルの生涯が、実はイエスの生涯をなぞるものであったことが簡潔な文体の中に読み取られます。

この本を元に様々に思い巡らせることができそうです。

先般、上智大学のキリシタン文庫が関係して「キリシタン版精選」という日本最古の印刷物が復刻されたそうです。ザビエルの列聖式に立ち会った唯一の日本人イエズス会士、ペトロ岐部と 187 殉教者の列福の年にもあたる今年はキリシタン年になるのではないかと思います、この本を紹介させて頂きました。 (久野)



## みんなの広場

教会報2月号で、教会報紙面上でのみなさまの自由な分かち合いの場を提案しましたところ、さっそくご寄稿頂きました。ありがとうございました。

広報部では引き続きみなさまからの原稿をお待ちしています。特別な出来事でもなくともかまいません。日々の暮らしの中で、神さまを感じる瞬間を教会報の場を借りて、広くみんなで分かち合いましょう。

原稿は、広報部宛で受付にお届けください。手書き、ワードデータ、メール、ファックスいずれの形でもお受けいたします。  
(広報部)



神戸海星病院が新しくなりました。その3階に、優しい温かみのある素敵な聖堂をシスターが設計をなさいました。

昭和36年、万国病院からマリアの宣教者フランシスコ会に引き継がれ、その時にかかわっていたSr.加藤が今もここにご健在で活躍していらっしゃいます。初代ペーテルス主任司祭から現在の桜井主任司祭に至るまで六甲教会がこの聖堂のお世話を引き受け守ってこられました。神父様方、Sr.加藤、Sr.浜中、山中先生ご夫妻、信徒の聖堂奉仕(先唱、オルガン、お花係)の方々の並々ならぬ奉仕で、40年余りにわたり、聖堂を訪れる方たちのために癒しと祈りの場として存在していることを知りました。

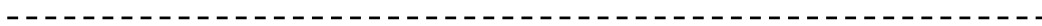
信者のみならず、入院患者、お見舞いの人、病院で働く方たちが聖堂を訪れ、疲れをいやし、一人静かに考える時を過ごし、あるいは神に祈り、願い、委ねて、聖堂を後にされるそうです。死者の日に行われる追悼ミサ、クリスマス等は職員の方が先頭に立って準備をされ、共同祈願やミサの冊子を作り、ミサに参加され、共に神への祈りを捧げます。ここにイエス様が生きて、働きかけていらっしゃいます。御聖体の現存が皆をいやしてくれています。リハビリに来られる方々が入口にある聖母子像に手を合わせていらっしゃる姿に、人の祈る心の自然な姿を感じました。

この度、集会祭儀者や聖堂奉仕者が加わり、これまでと同じ様に御聖堂を守っていく恵みを頂くことになりました。心を込めて、思いを尽くして、祈りを通して、この聖堂に生きていらっしゃるイエス様のために小さな働きをしていきたいと思いました。

一度、主日の午後5時に海星病院3階にあります聖堂にいらっしゃいませんか？

感謝と祈りのうちに

(奉仕者の一人として 藤井)



昨年から今年にかけて2本の戦争映画を観た。“父親たちの星条旗”と“硫黄島からの手紙”である。

昭和39年生まれの私にとって戦争体験はないし、家族や親戚に戦争の犠牲者はいない。そんな私が戦争についてわが身に置き換えて考えるきっかけがあった。一つはNHKの朝のドラマ“純情きらり”。もう一つは私が大学の卒論ゼミでお世話になった、上智大学名誉教授、霜山徳爾先生の著書“共に生き共に苦しむ 私の「夜と霧」”(河出書房新社)である。この二つから“人はその生きた時代の影響をいかに受け、その時代に作られるか”ということを考えさせられた。

国と国との戦争は個人の力ではどうにもならないが、一人の人間の背景には親があり、家族があり、友人がいる。一人の死には多くの人の悲しみが伴い、人生までも変えてしまう。また、戦地から戻っ

ても戦友の死や戦場での情景が蘇り、その苦悩を一生背負う人も少なくない。

二つの映画からは、特に生還した兵士の苦悩と、兵役にとられた本人とその家族の想いについて深く考えさせられた。

神様からいただいたかけがえのない私たち一人一人の命。戦争がなくなることを祈ることはもちろん、良き時代を築いていけるようにまずは一家庭人として妻であり、母である自分を見つめなおしたいと思う。  
(古寺)

---

### 「子どもたちはいかに生きるかを学ぶ」

子どもが批判されて大きくなるなら、非難することを学ぶ  
子どもが敵意を感じて大きくなるなら、争うことを学ぶ  
子どもが嘲笑されて大きくなるなら、臆病になることを学ぶ  
子どもが辱められて大きくなるなら、警戒することを学ぶ

子どもが寛大な心につつまれて育つなら、忍耐することを学ぶ  
子どもが励まされて育つなら、自信を持つことを学ぶ  
子どもが褒められて育つなら、良さを認めることを学ぶ  
子どもが公平に扱われて育つなら、正義を行うことを学ぶ  
子どもが安全に守られて育つなら、信頼を持つことを学ぶ  
子どもがよしとされて育つなら、自分を好きになることを学ぶ  
子どもが受け入れられて友情の中で育つなら、世の中に愛を見つけることを学ぶ

これは、2007年元旦の深夜のミサで、パレンティン神父様が引用されたものです。イグナチオ教会で結婚講座をされている時に使われていたテキストだそうですが、特に最近、子供たちの悲しいニュースが多い中、心に響いた言葉でした。しかし、神父様の言葉は「決して子どもだけではない。大人同士が向かい合う時もこのように対していかななくてはならない」と続けました。

周囲の人々との愛のあふれる関係を築いていくため寛大で公正な心を持つことができるように、そしてそこに神様が居てくださるように、と強く神に祈った、今年最初のミサでした。  
(藤井)

---

2005年4月より、広報部コーディネーターとして小教区評議会に参加してきました。

会議はいつも、気がつけば予定時間を過ぎてしまっているほど白熱したものでした。書記としてそこにいるだけの存在ではありましたが、評議員のみなさまの「六甲教会をよくして行こう。福音を述べ伝えていこう。」という真摯な姿勢と、熱い気持ちにいつも感動いたしました。

そして気付きました。

教会はこうして神さまを思い、人を思って、奉仕する人々によって支えられているのだということ。自分の時間(人生)は、その人自身のためにあるのではなく、実は人のためにあるのだということ。それはつまり神さまのためにあるのだということ。

まさに目からうろこが落ちる思いでした。今まで知る由もなかった「大切なこと」を学ぶことができました。この機会をお与えくださった神さまに心から感謝しています。

コーディネーターとしての務めは3月末で終了しますが、今後も広報部の一員として、愛をもって、教会に、神さまに自分の時間を注いでいきたいと思えます。  
(木藤)

「信徒総会」改め

## ～小教区総会～

日 時： 2007年3月18日(日) 11:15～

場 所： 大聖堂にて

\* 10時ミサ後に開かれます

\* この日、9時と11時ミサはありません。

わたしたちの六甲教会に関わる大切な事項を話し合います。参加は信徒全員の義務でもあり、信徒奉仕職の大きな役目のひとつです。

**みなさま、ごぞって参加しましょう！**

### 「小教区総会」で未来の六甲教会を！

評議会議長 鈴木肇

毎年3月に行われています「信徒総会」を今年から「小教区総会」と名を改めて来る3月18日に開くことになりました。「信徒」だけではなく、この小教区に関わる司祭、修道者、すべてのキリスト者を視野にいれた開かれた教会となるように司牧、宣教についての重要な事項を審議したいと思ったからです。みなさまにも事前にお考えいただきたい議題を二つお知らせいたします。

#### <司牧について>

六甲教会でも司祭の減員、高齢化が進むなかで、将来、主日のごミサをどのように維持してゆくの、いまから将来を予想してどのような心構えで対処するのか。

#### <宣教について>

「みんなで担う信徒奉仕職」で、信徒が担当している聖書勉強会や信仰入門講座などの活動を私たちはどのように理解し、支援し、後継者を育成しようとしているか。

最近、六甲でも少子高齢化の影響で、小百合児童館の閉鎖や、司祭の減員でイエズス会の六甲学院修道院にはもうどなたもいらっしやなくなるなど身近な問題が起こっています。子供の信仰教育に危機が迫っています。これらのことで、神戸地区評議会では今年度の重点活動テーマを「次世代の青少年を育成するため、子供の信仰教育とそれを担う若い父母を支援すること」と決めました。それぞれの小教区で信徒が教会学校などと協力して、具体的な対策を実行することが求められています。また、六甲では登録されている信徒数と実働信徒数との差が年々大きくなっています。寝たきりの老人の方が増えたからでしょうか、一方では18歳以上30歳までのいわゆる若い青年層が206名も在籍していることになっています。これも実情を調査する必要がありますが、この教会ではまだまだたくさんの才能のある人たちが出番を待っていらっしやるのではないのでしょうか。

あなたがこのまま何もなさなければ10年先にはどうなるでしょう。でも、この教会にはあなたにふさわしい役割が必ずあります。みんなで力を合わせれば素晴らしい未来がこの教会にも約束されます。それをお考えいただく総会です。積極的なご参加をお願いいたします。

教会報月4月号の発行は、4月1日(日)です。

編集会議は3月25日(日)です。

記事原稿は、3月18日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6

発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父

編 集 広 報 部